

税の作文において、税務署長賞を受賞した堀内南歩（本校3年生）さんにお話（11月）を伺いました。

税務署長賞 一まず、おめでとう。受賞された感想は。

「ありがとうございます。まさか受賞するとは思いませんでした。」



—作文の中身は、どのような内容を書いたのですか。

「身近なところで使われている税金の使い道とか。」

—どんなことに使われている税金のことですか。

「私は、校外のクラブチームで陸上競技をしているのですが競技場であったり、練習をしている公園であったり、そのような公共施設はすべて税金を使って建てられているなということです。」

—ほかに思うことは。

「普段の生活の中において何気なく利用している場所や消費していることでたくさんの税金が使われ、お金が動いている。ということを知った人にも知ってほしくて。そしてたくさんの税金で建てられた公共施設など大事に使いたいし、自分たちで払うべき税金に責任を持つことが大切だと思っています。」

—このたび、税務署が主催し新聞社が後援する特別座談会に出られたのですね。

「はい、出ました。」←「聞くところによると県内中学生約 5000 人、高校生約 2600 人の応募者の中から選ばれた 5 名の中高生の皆さんが座談会に臨まれたとか。」「はい、そうです。」

—座談会では、どんな感じでしたか。

「進行する座長（新聞社支局長）さんがいらっしゃって、話を進めながら順番に話しました。」「私たち中高生が 5 名、大人の方々は、県教育委員会教育長さんとか納税協会会長さんや署長さんとか同じく 5 名いらっしゃいました。」

—どんな話をしましたか。

「作文にも書いたとおり公共施設は、税金で建てられていること。利用する私たちが、そのことを理解すること。これから先の社会における正しい税の使い道についてです。」

—正しい税の使い道とは。

「私の母は、仕事をしています。そのような家庭環境の中、母が安心して働けるよう保育施設などの充実に税金を使っていたきたいです。」

—審査員の話(抜粋)

「作文の中には、調べたデータを書いただけというのでも少なくありません。しかし皆さんの作文は、それらのデータを基に自分の気持ちや考えを自分の言葉にして表現されています。」「皆さんは、得た情報を自分のものにして深く考え、自分の意思をしっかりと述べられています。奈良県の教育の成果だと思っています。」